

青森県立保健大学リポジトリ A-plus(アプラス) 平成22-24年度委託事業成果報告



成果と課題	
22年度	著作権処理を教員(筆頭著者)に依頼したところ、共著者への確認が困難とのことで回答率が低い結果に ↓ コンテンツ収集のためには図書館で著作権処理を代行せざるを得ないと実感、そして決意
23年度	著作権処理の代行開始 ↓ 研究室訪問を実施したところ、即答してもらえる形となり効果あり ↓ ただし、共著者への著作権処理に追われる結果に・・・23年度は29名実施 ↓ 仮データの入力・広報にも力を注ぐ
24年度	共著者(244名)・出版者(29者)に対し著作権処理を実施 ↓ OAWイベントでは広報の形を見直し、図書館の外に出てアピールする作戦を実行

保健医療福祉系ならではの難しさ

- 単著が少なく、共著者が多い。しかも、共著者の多くは学外者(病院勤務者等)
- 著作権処理を図書館で代行しているため、図書館の業務量が増大
- 公開までに時間と労力を要し、コンテンツ数の伸び方は緩やか

公開前のデータ管理は何がベスト?

- データ管理の方法をExcelからリポジトリシステム内の仮データへと変更
- しかし、進行状況を把握しやすい方法を現在も模索中

効果的な広報活動とは

- 教員への広報活動は研究室訪問など個別に行うのが効果的
- 教職員および学生向けの広報活動はリポジトリの認知度UPのためにはやっぱり必要

リポジトリ業務を通して、
教員の研究内容を深く知ることができました。
このことは私たち職員にとって、思いがけないメリットでした。



コンテンツ(2013年5月現在)



準備中：仮データ作成済みで許諾確認中のもの